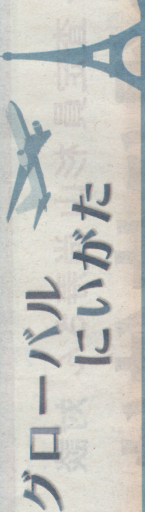


国際交流拠点から



新潟日報社が開発した米ニューヨーク・中国・上海・欧州(パリ)の国際交流拠点などを通じ、海外で暮らす本県関係者から現地の様子を紹介してもらいます。ウェブサイト新潟日報デジタルプラスにも掲載し、感想や意見を受け付けています。



第1月曜掲載

from マレーシア



澤栗 貢さん

新潟市西蒲区出身

学校再開 子供と喜ぶ

(澤栗さんは1957年、新潟県西蒲区日登町生まれ。文芸記者の二子派遣と2019年から現職です)



シヨール日本人学校の子どもたち

ようやく学校は再開されたが校外学習も大きな学校行事は実施できず、保護者の学校への入校も許可されていません。そんな中でもやっと卒業と再会でき、学校は卒業を受けられたり友達と遊んだりできる喜びをかみしめる子供たちを見ると救われた風になります。

シヨール日本人学校は小中併設校で児童生徒数は現在44人。学年の広さラウンドと冷房付きの広い体育館など世界の日本学校の中では恵まれた施設を誇っています。

高松からシヨールに次ぎ隣の都市でもあのシヨールは、日本がサッカーW杯に初出場を決めた地であり、1997年のシヨールの設置はライオンスタジアムでの出来事でした。その年に私が勤務するシヨール日本人学校は誕生しました。

多くの民族で構成されている多民族国家から、食べ物もマレー料理、中華料理、インド料理、西洋料理、日本料理と多種多様という楽しめず。2000年前後で食することができる場所があります。

しかし、その景色も新型コロナウイルス禍で見られなくなりました。今は街中は感染患者の減少(と言っても毎日多くの感染者が出ていますが)に伴って規制が緩和され、飲食店にもなわついています。

マレーシアのシヨール州の州都シヨールは、シヨール海峡を隔めた立派な道路でシヨールと結ばれています。その道路を使い、1日に約30万人がバイクで通勤しているそうです。逆に週末になるとシヨールの人々が買い出しやレジャーで夕暮までやって来るため、昼夜とも橋は渋滞です。

感染禍で格差が拡大

深沢 正雪さん

邦字紙「ブラジル日報」編集長



from サンパウロ

(深沢さんは1965年、静岡県生まれ。92年からブラジルで専任通訳者。2004年からツケで新聞編集長。1月からブラジル日報編集長。本県の移住についての書も出版しています)

ブラジルは世界でも有数の格差社会だ。新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)の前から、人口億人のうちで一人当たりの月収が450リアル(約5千円)以下の極貧層が11%もいた。この層の人たちが1日に使えるのが160円程度。それが新型ウイルス禍で13%に増え、さらに昨年はインフレが10%超となり、ただでさえ少ない収入の価値が1割も下がった。

「5千円」という金額は、日本ならスーパーでの一回の買い物代にすぎないかもしれない。でもその金額で1カ月生活している人が、このブラジルをほしめ世界にたたき込んでることを嘆息している。

「もしかして1日分の家族の食事も」。そんな顔が顔をよぎった。妻にそれを伝えず、チラシを買ってさういう人たちと同じところで買い物をしていくかと思うと胸が痛くなる」とつぶやいた。

丸がついていたのはビスケット(1.25リアル約20円)が2個、インスタント麺(0.99リアル約20円)が3袋、コンフレック(1.19リアル約45円)など。合計しても150円にも満たない。

その嫌なすり替えて魚市場に着く。売りが安く買手が少なかったのが原因で、値段を下げた。値段を下げたのは1000円。先ほど列に並んでいた人たちの顔が曇りに浮かび、気が引けて安いサモンを買った。

その嫌なすり替えて魚市場に着く。売りが安く買手が少なかったのが原因で、値段を下げた。値段を下げたのは1000円。先ほど列に並んでいた人たちの顔が曇りに浮かび、気が引けて安いサモンを買った。

その嫌なすり替えて魚市場に着く。売りが安く買手が少なかったのが原因で、値段を下げた。値段を下げたのは1000円。先ほど列に並んでいた人たちの顔が曇りに浮かび、気が引けて安いサモンを買った。



近所のスーパーで手にしたチラシ。50円以下の商品は明らかに丸がつけられている

◇おからの